

## 京都市老人福祉施設協議会の物価高騰による食材料費などへの 支援を求める取り組みなどについて

- 老人福祉施設や介護サービス事業所では、原油価格・物価高騰に直面し、非常に厳しい運営が続いています。
- 当協議会では、京都市に対し、老人福祉施設や介護サービス事業所の厳しい状況を訴えて物価高騰対策支援の実施を要望するとともに、国会議員等に対し、老人福祉施設や介護サービス事業所への物価高騰対策支援の財源確保を、政府に働きかけていただくように要望してきました。
- このような活動の結果、令和5年3月22日に、政府において「電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援地方交付金」を1兆2千億円増額し、高齢者施設・介護サービス事業所に対する物価高騰対策支援を推奨事業メニューとすることが決定されました。
- 政府による財源確保を受け、京都市でも、高齢者・障害者施設が安定的な運営を行えるよう、令和4年度に引き続き「令和5年度物価高騰対策支援金」を支給するための補正予算案が取りまとめられ、令和5年5月29日に京都市会で可決されました。
- 先行して4月から支給手続が始まっている「令和5年度食材料費高騰対策支援金」と合わせ、老人福祉施設や介護サービス事業所の運営の安定化やサービス水準の確保の助けとなっています。
- 今後も厳しい状況が続くと見込まれることから、当協議会としては、国に対して、老人福祉施設や介護サービス事業所が安定的に運営できる水準の介護報酬に改定することと、報酬改定までの間の支援を行うことを、京都市や関係団体等と連携して働きかけていきます。

### <会員施設の声>

- ・ 食材料費高騰対策支援金があったことで、デイサービスのご利用者の食費を値上げせずに済みました。
- ・ 給食業者の食材料費を抑え品数をそのままにしようとする、献立の中でコストのかかる献立が減らされ、安価な献立の繰り返しとなるため、単調な食事となります。最大の楽しみである食事の質を維持するための値上げが避けられないところでしたが、食材料費高騰対策支援金の支給により、値上げせずに、これまでと同じ水準の食事を提供しています。
- ・ 電気、ガス代が高騰し、さらに値上がりの傾向の中、体調管理の難しい高齢者にとって感染症対策としての換気を行いながら室温、湿度の管理を行うことは、電気、ガス等の使用料増加につながります。しかし、高いからと言って使用料を控えられるものではない中で、物価高騰対策支援金が支給されることによって、快適な生活空間の維持、感染対策につながっています。

- ・ 電気、ガス代だけでなく、おむつ代も上昇しています。おむつ代の値上げについては、使用するおむつの種類に制限を設ける可能性も出ていました。ご入居者個人や心身状況、体調に合ったおむつの使用は、認知症の方特有の不快感等の緩和に効果があることから、介護現場においては重要視しています。物価高騰対策支援金を活用して、ご入居者に合ったものを引き続き使用していきたいです。
- ・ 物価高騰対策支援金によって光熱水費等の上昇額の全額を賄えているわけではありませんが、資金繰りの助けになっています。
- ・ 今後も物価高騰が続くため、支援の継続をお願いします。